

令和6年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	日本共産党	支出伝票No.	
事 業 名	「住みよさランキング埼玉県1位、住みたくなる10のワケ」の取り組み		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

住みよさランキングにおいて常に上位をキープしている。住みたくなる10のワケの中に、充実の子育て支援&サポートが入っているため、今後の飯田市の子育て支援に関して学びを得る。

(2)実施概要

調査・研修の場合の実施	日時	訪問先・主催者等
日時と 訪問先・主催者	令和 6 年 1 0 月 2 8 日 1 3 時 3 0 分～1 5 時 3 0 分	東松山市役所 こども家庭部 こども支援課

(3)実施概要

報 告 内 容 ・ 実 施 し た こ と	1 視察先（市町村等）の概要
	東松山市（ひがしまつやまし）は、埼玉県の南東部に位置する市で、埼玉県内では比較的規模の大きい市で、
	人口は 91,018 人、42,953 世帯（令和 5 年 10 月 1 日）。市名の由来は松山部会町村合併連絡協議会で、「松山市」に決まったが、「松山市」では四国の松山市と混同のおそれがある（自治省）ため、改めて、
	市名を決定することになり、「東松山市」に決定された。池袋へ東武東上線・TJ ライナーで 44 分（通常の快速急行・急行列車では 50 分程度）という環境から東京のベッドタウンとなっている一方、周辺市町
	からの通勤、通学流入も大きく、昼夜間人口比率が 102.6 %（令和 2 年国勢調査）と県内市部で最も高い中核都市となっている。
	2 視察内容
	0 1 通勤通学が楽チン・・・都心からのアクセスが良く、東武東上線で池袋駅から最短で 4 4 分
	0 2 あこがれの一軒家で快適に暮らせる・・・豊かな自然と生活の利便性、一軒家を選択し家族で移住する人が増えている。
	0 3 充実の子育てサポート&支援・・・妊娠から子育て期まで、子育て世代への充実したサポートあり。アプリや冊子での情報提供をはじめ、子育てについて気軽に相談できる場や遊び場も多くある。
	0 4 自然とともに暮らせる・・・比企丘陵の豊かな緑と都幾川の清らかな流れ。恵まれた自然の中で子どもたちはのびのびと成長できる。
	0 5 家族み～んなが笑顔！レジャー&施設・・・市内には家族みんなで楽しめるスポットが充実している。動物・草花とのふれあいや自然、農業などをテーマにした多彩なレジャー施設あり。
	0 6 日々の買い物が便利！・・・普段の買い物から週末のまとめ買いまで、暮らしを支えるショップがたくさんある。車はもちろんのこと鉄道や路線バス、市内循環バス、デマンドタクシーなど移動手段も充実しています。
	0 7 高速道路でどこへでも行けちゃう・・・東松山 IC から関越自動車道に乗れば、群馬・新潟方面へ。また、東京外環自動車道を経由して東京方面、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）を経由して神奈川方面へのアクセスも抜群。
	0 8 働く場所もたくさん・・・恵まれた交通環境から企業の立地が進み、働く場の創出にもつながっています。また、創業や就農など多様な働き方への支援もあり、それぞれに合った働き方を提案している。

報告内容・実施したことで	09 文化と芸術が薫るまち・・・多くの史跡や文化財が残されていて、お祭りや行事も各地区で大切に受け継がれている。 10 おいしいグルメもいっぱい・・・「やきとり」に代表される東松山市のグルメ。市内にはカフェやレストランなど、たくさんの個性豊かなグルメスポットがある。 特に03について ・子育て支援センターソーレ（太陽）＆マーレ（海） 子育て支援の拠点施設として独立センター型の施設として開設される。0歳から3歳までの乳幼児及びその保護者のための遊び、各種イベント、講演会、各種イベントを開催している。育児の悩み相談やサークル支援も実施。（屋根のある遊び場） ・こあらブック こそだて・あんしん・らいふの頭文字「こあら」ブックと命名 目次のタイトルが面白い 妊娠・出産→おめでた♥ 子育てサポート→困ったな・・・どうしよう・・・等 ・リフレッシュチケット（3歳未満のお子さんを在宅で養育する保護者） 一般財源 在宅で子育てをしている家庭の育児負担軽減を目的として、交付している。20枚綴り1セット（他条件あり）市内の保育施設利用や遊び場（施設や公園）に利用できる。
感想（まとめ）・市に活かせること等	東松山市の子育て支援を活かす視点 東松山市の子育て支援は、飯田市の福祉や介護サービスにも応用できる可能性を感じた。 ① 子育て支援拠点のモデル 東松山市の「子育て支援センターソーレ＆マーレ」のように、独立型の施設において親子の交流や相談ができる場を設けることで、子育て世代の交流の場の創設や相談の場につなげる。 ② 情報発信の工夫 みんなで子育てナビや「こあらブック」のように、わかりやすくまとめた冊子やアプリで情報発信することで、行政の情報をより多くの人に届けることが可能。こあらブックには防災マップも付属している。介護支援でも「初めての介護」「困った時の相談窓口」などをわかりやすくまとめた冊子やアプリを活用すれば、高齢者やその家族が情報得やすくなります。 ③育児支援のリフレッシュ券制度 東松山市のリフレッシュチケットは、在宅で育児をしている家庭の負担を軽減する制度。飯田市でも検討してはどうか。 交通や利便性の改善 東松山市の「デマンドタクシー」や「市内循環バス」の整備は、高齢者移動支援の面でも参考になる。飯田市でもデマンド交通があるが、介護サービスと連携して「介護施設への送迎支援」や「高齢者向け移動支援」として活用できる可能性がある。

（3）この事業実施後の対応及び方向性

- ・会派の次年度予算案に関する提言の参考とした。
- ・会派として調査継続中。

令和 6 年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	日本共産党	支出伝票No.	
事 業 名	子ども・子育て支援複合施設「AGECOCO」について		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費		

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

施設建設までの経緯と、複合施設のメリットについて学び、飯田市の施設の在り方や今後の展開について考える材料にする。また、見学を通して機能について見識を広げる。

(2)実施概要

調査・研修の場合の	日時	訪問先・主催者等
実施日時と 訪問先・主催者	令和 6 年 10 月 29 日 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分	AGECOCO 上尾市子ども未来部

報告内容・実施したことで	1 視察先（市町村等）の概要 上尾市は、首都東京から 35km の距離にあり、埼玉県南東部に位置している。東は伊奈町と蓮田市に、南はさいたま市に、西は川越市と川島町に、北は桶川市と隣接している。 昭和 30 年 1 月 1 日、上尾町、平方町、原市町、大石村、上平村、大谷村の 3 町 3 村が合併して上尾町になり、3 年後の昭和 33 年 7 月 15 日の市制施行で上尾市が誕生。当時、人口は約 3 万 7,000 人だったが、地理的条件の良さに国の高度経済成長政策も加わり、田園都市から工業都市、そして住宅都市へと変貌した。人口は約 23 万人で、上尾市では、「みんなでつくる みんなが輝くまち あげお」を将来都市像と定め、新たな時代に向けたまちづくりに取り組んでいる。
	2 視察内容 「AGECOCO」上尾市の子どもとして子どもたちが多様性を認め合う「上尾の子」、豊かな人間性（心）「上尾の心」、ひよこのような育まれているイメージ「ここ」という思いが込められている。 「AGECOCO」は上尾市立大谷西保育所、発達支援相談センター、つくし学園（児童発達支援センター）を併設した子ども・子育て支援複合施設。子どもたちが、交流を通じて多様性を認め合い、豊かな人間性が育まれることを目的に令和 5 年 4 月 1 日に開設。 1、施設建設までの経緯について ・保育課では、西上尾第一保育所、西上尾第二保育所、2 施設の老朽化の課題があった。一方、発達支援相談センターでは、つくし学園の定員超過と施設の老朽化のほか、所在地が市の北西よりであったことから通園バスの送迎に時間がかかっていたことと、相談支援・地域支援を担当するグループとつくし学園が離れた場所で、分散して業務を行っている課題があった。 ・また、つくし学園から公立保育所を訪問し、交流実践しているが保育所とつくし学園の子どもたちが日常的に交流を図り、ともに育ちあえる環境を整備することにより、効率的かつ効果的な交流保育を推進させたい狙いがあった。このことから 4 施設を統合した新たな複合施設を整備するように計画した。 2、複合施設のメリット ・保育所とつくし学園のそれぞれの施設に通う子どもたちが、日常的に同じ場所・空間を共有でき、効率的かつ効果的な交流を図ることにより、子どもたちが多様性を認め合い、豊かな人間性をはぐくむことが期待できる。 ・園庭、ラウンジのほか、更衣室、洗濯室などを共有することによりスペースを有効活用できる。 ・給食の一括調理・提供による効率化及びコストの削減。 ・互いの休館日に占有スペースを超えた有効活用によるイベントの開催ができる。

	・同敷地内にあることから、大矢西保育所とつくし学園のそれぞれの活動内容がわかり進路先として検討しやすい。 ・発達に関し、気づきから専門的な療育までの切れ目のない支援が提供できる。
感想(まとめ)・市に活かせること等	・保育所は産休代替え、保育士の確保に苦慮している。埼玉県として保育分野での修学や就職のための支援資金貸付制度活用したり、保護者等へ周知も行っている。 ●保育士修学資金貸付 (指定保育士養成施設に在学し、保育士を目指す方) ●保育補助者雇上費貸付 (保育補助者を雇用する保育事業者の方) ●保育所復帰支援貸付 (新たに就職する又は育休等から復帰する未就学児を持つ保育士の方) ●保育士就職準備金貸付 (保育士として一週間あたり20時間以上で就職する方) ●未就学児を持つ保育士の子どもの預かり支援事業利用料金の一部貸付 (子どもの預かり支援事業を利用する未就学児を持つ保育士の方) ●潜在保育士就職準備金貸付 (保育士として一週間あたり10時間以上20時間未満で就職する方) ●新卒保育士就職準備金貸付 (新卒保育士の内定をする保育事業者) ・児童発達支援センター以前は定員が40名だったが、建て替えて70名に増員できたことで多くの子どもさんを受け入れることができるようになった。 ・施設の統合と効率化による多世代支援 「AGECOCO」は、保育施設と発達支援施設を統合することで、子どもの発達支援や交流の充実、運営の効率化を実現しています。 飯田市でも今後、高齢者・障がい者・子どもが共存できる複合施設の整備も考えられる。 これにより、介護・福祉・子育て支援の多機能化が可能となり、異なるニーズを持つ市民が同じ場で支え合える。 例：子どもの放課後デイサービスや発達支援センターと、サービスを併設することで、送迎介護の負担軽減や効率的な運営を実現する。 ・送迎の効率化 高齢者や障がい者、子どもたちの送迎を一元化することで、バスの運行を最適化することで、アクセス性向上とコスト削減を両立する。 ・空きスペースの有効活用 休館日や空き時間を活用し、地域のイベントや学習支援、介護予防プログラムを開催する。 ・介護分野の応用 認知症の「気づき」から「専門的支援」までの流れを整備 介護予防から在宅支援、専門的な介護まで、切れ目のないサービスの提供が可能になります。 地域を含めた支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、市民が相談しやすい環境を整備する。 ・飯田市で実践できる具体策 子ども・障がい者・高齢者が共存する複合施設の整備 例：保育園＋発達支援センター＋高齢者デイサービスの併設 介護・福祉・子育ての運営コスト削減（給食・送迎・スペースの共有化） 認知症予防と早期発見支援の充実（MCI段階でのプログラム開発） ワンストップ相談窓口の設置（医療・福祉・介護の連携強化） これらの取り組みを進めることで、AGECOCOのような「支え合いの仕組み」を構築できるかもしれない。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・これを参考とし、会派の次年度予算案に関する提言の参考とした。また、会派として調査継続中。